

新 教 育 の 本 森

ほつかいどう

ひきこもりの経験者が自ら体験を語ることで解決策をさぐる「ひきこもり大学」の道内版「道産こもり179大学」が8日、札幌市内で初めて開かれた。ひきこもりの実態に詳しいライターや経験者が講演し、家族や支援者、行政関係者ら約70人が聴き入った。ひきこもりから抜け出すため、できることは何か。

全夕部一好

逆転の発想

ひきこもり大学は経験者を講師に迎えて体験を語つてもらひことで、人間関係の修復や周囲の誤解をなくすのが狙い。

ひきこもり大学

経験者を主役に



札幌で初開催 社会復帰の課題は

より深刻な中高年

札幌の支援団体「NPO法
人レター・ポスト・フレン
ド相談ネットワーク」が開
いた。

著者で、同大学に関する池上正樹さん(52)は「これまでの支援策は行政が上から目線で行う押しつけが多い。逆転の発想で経験者自身が主導され、生まれつた大学

が主役となる詠みどり
まれた」と話した。

どうながりをもたないひま
こもりに肩書や所属はなく、社会復帰への高い壁となる。行きなり動くことは

患で2度のひきこもりを経験した函館園フリースクール「すまいる」の田中透事務局長(30)は「自宅で笑顔の練習をし、多くの本を読んで明るい言葉を探した。心の中のコップの水がきれいになるように努力し、社会によく出られるようになつた」と経験を披露した。

また当事者による支援団体「グローバル・シップスこうべ」(兵庫県姫路市)の森下徹代表(47)は「外部経験者の視点から解決策をさぐった『ひきこもり大学』の道内版「道夢こもり179大学」

「札幌市中央区」で

39歳を対象に2010年に行つた実態調査によるところ、全国で69万9000人いると推計。しかし増え続けているとみられる40歳以上の実態はつかめていない。

同ネットワークの田中敦理事長(49)は「国のひきこもり対策は若者支援の一環としてこれまで進められた。しかし支えとなる親もいなくなる中高年のひきこもりがより深刻な問題」と指摘。さらに「当事者同士がつながり合い、社会に情報発信していくことが政策のミスマッチを補うことにもなる」と話している。